

## ヤスイ・ニクイの意味と成立要件\*

鈴木 基 伸

### 要 旨

ヤスイ・ニクイは意志動詞に接続することで、「～することが容易だ／困難だ」という行為遂行に対する発話者の難易評価を表す。本稿では、ヤスイ・ニクイが表す「難易」の中に「物理的難易」と「心理的難易」という二種類の下位区分があることを主張する。さらに両者の解釈上の区別が、ヤスイ・ニクイが接続する動詞句によって表される出来事内に、達成までの時区間が認められるか、認められないかというアスペクト的価値が大きく関与していることを主張する。また、出来事達成までの時区間が認められる場合には物理的難易と心理的難易の解釈が成立し、出来事達成までの時区間が認められない場合には、心理的難易の解釈のみが成立することを明らかにする。

**キーワード：**ヤスイ・ニクイ、物理的難易、心理的難易、アスペクトの意味

### 1. はじめに

形容詞性接尾辞ヤスイ・ニクイは、意志動詞に接続して「難易」の意味を、無意志動詞<sup>1)</sup>に接続して「傾向」の意味を表す。

- (1) この靴は {走りやすい／走りにくい}。
- (2) この季節は洗濯物が {乾きやすい／乾きにくい}。

(1) は意志動詞「走る」に接続して「走ることが容易だ／困難だ」という動作遂行の難易が、(2) は無意志動詞「乾く」に接続して「すぐ乾く／なかなか乾かない」という傾向の意味が表されている。先行研究 (Inoue (1978)<sup>2)</sup>、佐藤 (1988)<sup>3)</sup>、加藤

(2001<sup>4)</sup>)では、ヤスイ・ニクイの用法についてこれ以上の分類はされていないが、意志動詞と共に「難易」を表している用法の中にも、異なる意味が示されていると考えられるものがある。

- (3) a. この道路は舗装されていて走りやすい。  
b. この道路はぬかるんでいて走りにくい。
- (4) a. この通りには交番があって街灯もたくさんあるので、夜道でも一人で歩きやすい。  
b. この通りは暗くて最近ひったくり事件も多発しているので、夜に一人で歩きにくい。

これらにおけるヤスイ・ニクイは、「歩く」という行為を成立させることに対して「容易だ／困難だ」という評価を与えているわけであるから、(3)(4)における例文は何れも等しく「難易」を表している。しかし(4)のヤスイ・ニクイは(3)と比べ、その行為を遂行することが心理的に「楽だ、憚られない」「楽ではない、憚られる」という意味がより鮮明となっている。(3)が物理的要因による行為遂行の難易が表されているとするならば、(4)では、動作主の行為そのものに対する「心理的抵抗感の程度」が表されていると考えられる。このような心理的抵抗感が表されている難易は、「心理的難易」であり、(3)において示されている「物理的難易」とは性質を異にしていると筆者は考える。そこで本稿では、ヤスイ・ニクイが表す「難易」の中に、「物理的難易」と「心理的難易」という下位区分があることを主張する。さらにそれらの解釈上の成立要件には、出来事達成までの時区間の有無が関与していることを主張する。

## 2. 「難易」の下位分類について

### 2.1 潜在的能力と外在的条件

何等かの行為に対して難易の評価を行う際、その行為の遂行が容易であれば実現される可能性は高く、逆に困難であればその可能性は低くなる。したがって、ヤスイ・ニクイの成立要件には出来事が実現される「可能性」が大きく関与する。

ここで、「可能」の意味について考察した加藤(2003)の分析を引用したい。加藤(2003)は、出来事が「可能／不可能」と判断される場合、「潜在的能力と外在的条件」が関わると述べた。

(5) 読めません。だってイタリア語は知らないから。

(6) 読めません。暗くてよく見えないものですから。 (以上、加藤 (2003))

(5) は「イタリア語の能力」という潜在的能力の欠如による不可能であり、(6) は「暗くて見えない」という外在的条件から不可能とされている例である。潜在的能力が欠けている場合、動作主の意志に関わらず実現は不可能である。反対に外在的条件によって「読めない」場合は、動作主の意志さえあればその条件を改善する等によって実現が可能となる。したがって (5) (6) で表されている不可能性は、実現の可能性が残されているか否かという点において異なっている。

潜在的能力が欠如している場合には出来事成立の不可能性が不可避となるため、その状態を難易というスケールで測ることができない。ゆえにニクイを用いると不自然になる。反対に、外在的条件は実現の可能性が残されているため、それを根拠としてニクイを用いても問題ない。

(7) #読みにくいです。だってイタリア語は知らないから。

(8) 読みにくいです。暗くてよく見えないものですから。

(7) のようにイタリア語を知らない場合、行為を実現させる可能性がゼロとなるため、「容易さ／困難さ」というスケールで測ることができない。したがって「困難さ」を表すニクイを用いると語用論的に不適格となる。一方 (8) の場合、「暗くてよく見えない」という外在的条件は、視覚的能力そのものを否定するわけではなく、たとえば周りが暗くても暗闇に目を慣らす等すれば「読む」ことは可能であり、実現の可能性が残されている。よってニクイを使用しても不自然ではない。

以上のことから、ニクイが表す困難さには出来事成立の可能性が残されていなければならない、それゆえ難易判断の根拠は能力に関わらない外在的条件によらなければならないことがわかる。以下では、この外在的条件によって出来事成立の可能性が変化する場合について二つのパターンがあることを確認する。

## 2.2 物理的難易と心理的難易

動作主に行為を遂行する能力が備わっており、外在的条件によって何等かの行為が「できない」と判断されている例を以下に提示する。

(9) 熱いコーヒーをストローでは飲みません。

(10) 先生の前でタバコは吸えません。

(9) はコーヒーが熱いため、ストローで飲むことが物理的に困難となっている例である。この場合飲もうとすれば飲めるが、それによって身体的苦痛が伴うものであるため、動作主によって「飲めない」という判断が下されている。一方(10)では物理的な阻害要因は無く、行為を遂行したからといって身体的苦痛が伴うわけではないが、それをするによって先生に対して失礼な振る舞いをしてしまうため、動作主は気おくれを感じて「吸えない」のである。(10)は(9)に比べて動作主の心理的抵抗感がより鮮明になっている。(10)に見られる心理的抵抗感の大きさは、ヤスイ・ニクイ文においてもなされる。

(11) 先生の前ではタバコを吸いにくい。

(=先生の前でタバコを吸うのは憚られる)

(12) 熱いコーヒーはストローで飲みにくい。

(=熱いコーヒーはストローで飲むのが難しい)

(11)においても、(10)で示されたような心理的抵抗感が表されていることがわかる。(12)では、物理的な困難さが表されており、心理的抵抗感の解釈が一義的に成立しているとはいえない。ゆえに両者の違いは、困難さの要因が物理的なものなのか、心理的なものなのかという差異に求められる。

ヤスイ・ニクイの要因が心理的なものである場合、ニクイでは心理的抵抗感が大きいことが表され、行為を遂行することが「憚られる」という意味になる。一方ヤスイの場合、心理的抵抗感が小さいことが表され、「～することが憚られない」という解釈になる。

(13) ランキング BEST 3 のうち 2 商品は、明らかに女性を意識したものだ。女性が人前でも食べやすいカップ麺が登場したのは、私たちのような忙しい女性が増えているからにほかならない。

(<http://wol.nikkeibp.co.jp/article/column/20130719/157941/?P=3>)

(14) 父の日のプレゼントに。喜んでもらえたようです。ちょうど石垣島に長期滞在する前だったので、持っていく、と言っていました。甚平より人前でも着やすいだろうし、石垣なら散歩くらいできるかな？

([http://review.rakuten.co.jp/item/1/228735\\_10008469/2.1/](http://review.rakuten.co.jp/item/1/228735_10008469/2.1/))

(13) はカップ麺の食べやすさについて言及している例であるが、この場合のヤスイは、「人前でも」とあることから、「人の視線を気にしなくても済み、食べることが憚

られない」という意味が表されている。(14)のヤスイも同様に、人の視線を気にせず着ることができるという意味が表されており、「着ることが憚られない」と読み替えることができる。

ヤスイ・ニクイによって表される物理的な難易と心理的な難易は、その難易の性質および判断の根拠が異なるため、本稿では以下のような難易の下位分類を提示する。

(15) ヤスイ・ニクイが表す難易

①物理的難易

②心理的難易（心理的抵抗感の程度）

次節では、この二種類の難易解釈が、ヤスイ・ニクイが接続している動詞句が表す出来事中の時区間と関係していることについて論じる。

### 3. ヤスイ・ニクイの解釈と出来事達成までの時区間

#### 3.1 物理的難易の場合

まず、ヤスイ・ニクイが表示する意味の中に、心理的抵抗感の程度が読み取れず物理的難易のみ表されていると解釈される例を以下に示す。

(16) 肉が一口サイズに切られていて食べやすい。

(17) 芋焼酎はにおいがきつくて飲みにくい。

(18) お年寄りにとって新聞は字が小さくて読みにくい。

(19) この図書館はあまり人がいなくて勉強しやすい。

(16) は肉の大きさ、(17) はにおいの強さ、(18) は文字の小ささ、(19) は人がいないこと（静かであること）という外在的物理的要因が難易の根拠となっているものであり、何れも物理的難易が表されている例である。この場合、当該の行為を遂行することが「憚られない」「憚られる」といった心理的抵抗感の程度を一義的に読み取ることとはできない。

ここで、物理的難易のヤスイ・ニクイが出来事中のどの部分に焦点を当てているか、ということについて考えてみたいと思う。まず、(16)～(19)において用いられている動詞「食べる」「飲む」「読む」「勉強する」は、テイルが接続すると動作の継続を表す「継続動詞」（金田一 1950）であり、開始限界後は終了限界を持たない「非内的限界動詞」（工藤 1993）である。継続動詞によって表される事態の中には動作の継続

部分が含まれており、出来事成立までにある一定の時区間が存在する。これらの動詞にヤスイ・ニクイが接続し、行為遂行に対する物理的難易の評価が下される際には、その動作の継続部分に焦点が当てられていると考えられる。なぜそのように言えるのかというと、このような物理的難易を表すヤスイ・ニクイは、動作主が当該の行為を継続しながら、その行為に対する難易の評価が下せるからである。

- (20) 【一口サイズの肉を食べながら】「食べやすいね」
- (21) 【芋焼酎を飲みながら】「飲みにくい焼酎だね」
- (22) 【お年寄りが新聞を読みながら】「ああ読みにくい」
- (23) 【静かな図書館で勉強しながら】「ほんとに勉強しやすいな」

ここでは、動作主が動作を継続している最中において、難易の評価を与えていることが確認できる。もちろん、物理的難易を表すヤスイ・ニクイが動作の継続中にしか用いられないわけではない。動作を行う前に、「あの一口サイズの肉はたべやすいんだよ」「あの芋焼酎は飲みにくいんだよね」等と発話することは可能である。ここで筆者が言いたいのは、動作の継続部分を取り上げ、それに対して評価を行うのが物理的難易だということである。ここから、物理的難易の解釈が成立するためには、出来事内に動作の継続部分が必要であることが導き出される。

継続動詞は、その動詞の性質上動作の継続部分があらかじめ含まれているものであるが、そうではない動詞についてはどうであろうか。金田一(1950)が提示した動詞分類には、継続動詞の他に事態が継続部分を伴わずに成立してしまう瞬間動詞がある。瞬間動詞にヤスイ・ニクイを用いて物理的難易の解釈を成立させようとするをやや不自然になってしまう。

- (24) ? ドアを一回コンと {叩きやすい／叩きにくい}。
- (25) ? 一回ぴょんと {跳びやすい／跳びにくい}。
- (26) ? パソコンのキーを一回タンと {打ちやすい／打ちにくい}。

(24)～(26) が不自然だと判断される理由は、動作の継続部分を伴わないため、物理的難易の解釈が成立しないからだと考えられる。しかしながら、これらの瞬間動詞を反復させ、動作の継続が含まれるような文脈においては、ヤスイ・ニクイは容認される。

- (27) このドラムスティックは重くて叩きにくい。

- (28) トランポリンは2人以上乗ると跳びにくい。
- (29) このキーボードはキートップが低くて打ちやすい。

「叩く」「跳ぶ」「打つ」は、動作の反復が容易であるため、「反復の継続」という解釈が容易に成立する。この場合、その反復の継続部分に難易の焦点が当てられるため、ヤスイ・ニクイを用いることが可能となり、物理的難易の解釈が成立する。

では動作の反復が想定しにくい瞬間動詞の場合はどうであろうか。例えば「(鍵を)開ける」「(荷物を)置く」「行く」などは「叩く」「跳ぶ」「打つ」ほどは反復が容易とはいえない。ただ、これらは動作完了の時点で事態が成立する「内的限界動詞」(工藤 1993)であり、その終了限界に至るまでの時区間を想定することが可能である。これらの動詞に、終了限界まで動作が継続する時区間が認められる文脈が与えられれば、その部分に焦点を当ててヤスイ・ニクイを用いることができる。

- (30) この金庫の鍵は複雑で開けにくい。
- (31) 冷蔵庫が大きすぎてちょうどいい位置に置きにくい。
- (32) 最近新幹線ができて名古屋から鹿児島まで行きやすい。

(30) の場合、金庫の鍵を開けるには何段階かのステップが必要であり、金庫が「開く」までその行為が続けられる。(31) では大きい冷蔵庫を思ったとおりの位置に置くにはある程度の時区間が必要であり、その間ちょうどいい位置まで「置く」行為が続けられる。(32) も同様に、名古屋から鹿児島に「行く」までは時間がかかり、鹿児島までその行為は継続される。このように何れも動作継続の時区間が認められれば、ヤスイ・ニクイを用いて物理的難易の評価を下すことができる。

### 3.2 心理的難易の場合

次に、心理的抵抗感の程度が表されている心理的難易の例について考察を行う。

- (33) 最近この通りに交番ができて、夜中でも歩きやすい(=歩くのが憚られない)。
- (34) こんな昼間からビールを飲みにくい(=飲むのが憚られる)。
- (35) ウェディングケーキに書いてある新郎新婦の顔の部分は食べにくい(=食べるのが憚られる)が、何も書いてないところなら食べやすい(=食べるのが憚られない)。

(33)～(35) では、「歩くこと」「飲むこと」「食べること」に対して「憚られない／憚られる」という心理的抵抗感の程度が表されている。このような解釈が成立する場合、ヤスイ・ニクイは前節で考察したような物理的難易とは異なり、動作の継続部分を捉えているのではなく、出来事全体を包括的に捉えているといえる。なぜなら、この心理的抵抗感、行為が実際に行われる前に生じるものであり、行為の継続中に用いられるものではない。実際、そのように用いるとやや不自然となる。

(36) 【交番ができて治安が良くなった通りを夜歩きながら】

？「ああ、歩きやすいわ」

(37) 【昼間にビールを飲みながら】

？「ああ、飲みにくいな」

(38) 【新郎新婦の顔が書いてあるケーキの一部を食べながら】

？「ほんと食べにくい」

【それを聞いて何も書いてない部分を食べている友人が】

？「そお？こっちは食べやすいよ」

(36) は、物理的難易としてのヤスイであれば問題ないが、安全であるがゆえに歩くことが憚られない、という心理的抵抗感の程度を表すヤスイとしては不自然となる。(37) (38) も同様であり、「飲む」「食べる」という行為に対して心理的抵抗感を感じている（いない）という意味では成立しにくい。出来事の継続部分をフォーカスして心理的抵抗感の程度を表すヤスイ・ニクイが用いられないのは、それらのヤスイ・ニクイが評価の対象としているのは、動作の継続部分ではなく出来事全体であるからだといえる。

(33)～(35) において用いられている動詞は何れも継続動詞であるが、それ以外の動詞（瞬間動詞）であっても同様に心理的抵抗感の解釈が成立する場合がある。

(39) こんな夜中にドラムは叩きにくい、昼間なら叩きやすい。

(40) 昨日花子とけんかしたばかりなので彼女のうちに行きにくい。

(41) 明日試験で頑張っている太郎の部屋に入りにくい。

物理的難易を表すヤスイ・ニクイの場合、反復の継続部分や、出来事達成までの時区間を捉えていたが、この場合は (33) ～ (35) と同様、出来事そのものを包括的に捉え、それに対する心理的難易を表示している。

### 3.3 本節のまとめ

物理的難易を表すヤスイ・ニクイは、動作の継続部分、反復の継続部分、終了限界までの継続部分に対して焦点を当てるため、出来事達成までの時区間が必要となる。一方、心理的抵抗感の程度を表すヤスイ・ニクイは出来事を全体的に捉え、動作の継続部分にはフォーカスしない。このことから、ヤスイ・ニクイの意味解釈には、出来事達成までの時区間の有無が関与しているのではないかと考えることができる。つまり、動作の継続部分に焦点を置く物理的難易は、必然的に動作の継続に必要な時区間を要求する。一方、出来事を包括的に捉え、動作の継続部分に焦点を当てない心理的難易は、そのような時区間を要求しないのである。この関係性に従えば、出来事達成までの時区間が認められる場合、そこを部分的にも包括的にも捉えることができるため、物理的難易と心理的難易の両方の解釈が成立しうる。また、出来事達成までの時区間がなく、動作の継続が認められない場合、出来事全体を包括的に捉えざるをえなくなるため、結果として、心理的抵抗感の程度を表す解釈しか成立しないことになる。この出来事達成までの時区間の有無と、ヤスイ・ニクイの解釈の関係を以下のように提示する。

- (42) ヤスイ・ニクイが接続する動詞句が示す事態に、出来事達成までの時区間が認められる場合、その解釈は物理的難易及び心理的難易の解釈になりうるが、認められない場合には、心理的難易の解釈しか成立しない。

次節では、この関係性を確かめるため、出来事達成までに時区間が無い場合、心理的難易を表すヤスイ・ニクイにしかならないことを確認する。

## 4. 時区間を伴わない動詞句と共起するヤスイ・ニクイの意味

本節では、ヤスイ・ニクイが接続する動詞句が表す出来事内に時区間が認められず、瞬間的に成立する事象に対して難易の判断が発話者によって与えられている場合、どのような意味が表示されるのか、ということについて考察を行う。前節での主張に従えば、この場合ヤスイ・ニクイは心理的難易を表しているとして一義的に解釈されるはずである。

では、出来事達成までの時区間を想定しえない事態とはどのようなものであろうか。前節で述べたように、瞬間動詞に分類される動詞であっても、その動作を反復することや、終了限界に至るまでの過程が想定されるような動詞句では、時区間を認めうる。どのように解釈しても出来事達成までの時区間を認めにくい事態の例として、

やりもらいを表す「あげる」「もらう」「いただく」や「預ける」「預かる」等がある。これらは、モノがやり手（あずけ手）からもらい手（あずかり手）へと移動した時点で瞬間的に事態が成立するものであり、かつ、たいていの場合はその移動が生じるまでに時区間を伴った過程（プロセス）があるわけではない。また、「叩く」「打つ」などとは違って反復が容易であるとはいえない。以上のことから、「あげる」「もらう」「あずかる」「あずける」といった動詞においては、事態成立までの時区間が想定しにくいといえてよい。以下に例を示す。

- (43) 高いものでなければ、いらなくなっても人にあげやすい。
- (44) 親友の花子なら子供を預けやすい。
- (45) 友人はいらなくなったのでくれるというが、あんな高いバッグをただではもらいにくい。
- (46) 友人の範子が子供をあずけたいといっているが、うちにはペットがいるので預かりにくい。

これらはいずれもヤスイ・ニクイによって心理的難易が表されているといえる。(43)では、高価なものでない場合、それを人にあげても心理的抵抗感が感じられないため、その行為が憚られない、という意味が表されている。(44)では、親友であれば信頼できるため子供を預けることが憚られない、ということである。(45)は、高いバッグをもらうことによって負い目等を感じてしまうため、もらうことに対して心理的抵抗感を感じていることが表される。(46)では、ペットの影響によって感染症が引き起こされたり、噛んだりして子供に怪我をさせてしまう可能性があるため、預かることが憚られる、という意味になる。

(43)～(46)が心理的難易の解釈になるのは、その文脈から導き出されるからだとも考えられるが、物理的条件を満たすことによって物理的難易の解釈に傾かせようとしてもそうはならない。

- (47)? 太郎は手を大きく広げているので、この10円玉をあげやすい。
- (48)? 友人の花子は部屋が一部屋余っているので子供を預けやすい。
- (49)? 友人はくれるというが、今うちには余分なものを置く場所がどこにもないのでもらいにくい。
- (50)? 友人の範子が子供をあずけたいといっているが、今私には他人の子どもを世話する時間がないので預かりにくい。

このように、時区間を想定しにくい動詞句を、物理的要因が示されている文脈におくと、不自然になってしまう。これは (47)～(50) においては、ヤスイ・ニクイが物理的難易を表していないからに他ならない。つまり、(47)～(50) におけるヤスイ・ニクイは心理的難易の解釈にしかなりえないが、難易判断の根拠となっているものが物理的なものであるため、解釈上の衝突が起きているのである。

やりもらいを表す動詞以外に時区間の想定がしにくいのは、「～と言う」「～と言出す」「切り出す」「出す」などである。これらも、反復の継続や事態達成に至るまでの過程を想定することが難しく、時区間が認めにくい動詞である。これらの動詞にヤスイ・ニクイが接続する場合も、心理的難易のみが表される。

(51) 月収10万円の友人にお金を貸してくれとはいいいにくい。

(52) 長年付き合った彼に別れを切り出しにくい。

(53) あの安物のコーヒークップはお客さんに出しにくいですが、先日結婚式でもらったお洒落なカップなら出しやすい。

本節での考察を通して、出来事達成までに時区間を想定できないような場合、ヤスイ・ニクイは心理的難易のみを表すことがわかった。このことから、ヤスイ・ニクイの難易解釈が、出来事達成までの時区間の有無というアスペクト的価値と大きく関係していることが確認できた。

## 5. まとめと今後の課題

本稿では、ヤスイ・ニクイが表す難易の下位分類に、物理的難易と心理的難易を設定できることを主張した。物理的難易とは、動作主に当該の行為を行う能力がある状態で、物理的に出来事成立の難易を左右する要因によって、行為を遂行することが「容易だ／困難だ」と判断されることを指す。一方心理的難易においては、難易を左右する要因が物理的なものではなく、動作主がその行為に対して心理的抵抗感を感じ、行為を遂行することが「憚られない／憚られる」といった意味が表される。

また、物理的難易が出来事の継続部分に焦点を当て、心理的難易が出来事を包括的に捉えていることから、出来事達成までに時区間が想定できる場合には物理的難易と心理的難易、両方の解釈が成立しうるが、時区間の想定が困難な場合は心理的難易の解釈しか成立しないことについても主張し、その検証を行った。これにより、出来事の難易とは一見関わりが無いように思える、出来事達成までの時区間という動詞句が有するアスペクト的意味が、実は難易の解釈に大きく関与していることを明らかにす

ることができた。本稿での考察結果を以下の表にまとめる。

表. [意志動詞+ヤスイ・ニクイ] が表す難易について

上位区分	難易			
下位区分	物理的難易		心理的難易	
焦点	動作の継続部分		出来事全体	
成立要件	出来事達成までの時区間がある		①出来事達成までの時区間がある ②出来事達成までの時区間がない	
意味	ヤスイ	ニクイ	ヤスイ	ニクイ
	「～することが容易だ」 (能力的に実現可能であり、物理的な困難さも伴わない)	「～することが困難だ」 (能力的に実現可能だが、物理的な困難さが伴う)	「～することが憚られない」 (能力的に実現可能であり、物理的な困難さも伴わず、心理的抵抗感も少ない)	「～することが憚られる」 (能力的に実現可能であり、物理的な困難さも伴わないが、心理的抵抗感が大きい)

本稿の考察では、物理的難易と心理的難易を分けて考えた。これは「できない」によって示される不可能文においても見られるものであるため、このような難易の下位分類は有意であると考えるが、実は両者を截然と区別することは難しい。例えば物理的な要因によって困難さが引き起こされている場合、物理的難易とも、心理的難易とも読み取ることが可能な場合がある。

(54) 「この薬は苦くて飲みにくいんだよなあ。」

このような「飲みにくい」は、「飲むことが物理的に難しい」とも、「(苦いのは嫌なので) 飲むことが憚られる」とも解釈できる。出来事成立までの時区間がある場合には、物理的難易・心理的難易両方の解釈が成立することになるため、どちらの意味が表されているのかを判断するためには、ヤスイ・ニクイ文が用いられている文脈を詳細に分析する必要がある。出来事達成までの時区間がある場合、物理的難易・心理的難易の判断基準はどこにあるのか、という問題については今後の課題としたい。

## 注

\* 本稿は、日本語文法学会第12回大会(2011年)での発表の内容に基づく。

- 1) 杉本(1995)によれば、「てみる」「やむをえず～」は意志動詞との積極的な共起を機能として持つとしているため、「てみる」「やむをえず～」が共起可能な動詞を意志動詞として考察の対象とする。
- 2) Inoue(1978)は、意志・無意志という言葉を用いず、「±自己制御可能(self-controllable)」

という用語を用いている。仁田（1988）は、これと同様の、「自己制御性」という概念を用いて意志動詞と無意志動詞の定義を行っており、自己制御が可能か否かということは、意志・無意志と関係するため、本稿では、「+自己制御可能」は意志動詞、「-自己制御可能」は無意志動詞として扱うことにする。

- 3) 佐藤（1988）が指摘しているように、意志動詞であっても「傾向」の意味になることはあるが、本稿では考察の対象としない。
- 4) 加藤（2001）は、「難易」「傾向」の意味に加え、「性質」を表す場合があることを述べた。
  - (i) 子供に（とって）はやわらかいものが食べやすい。
  - (ii) よいチョコレートは溶けやすい。（以上、加藤 2001）

加藤（2001）の主張に従えば、「性質」という意味を、「難易」「傾向」に加えるべきかもしれないが、ヤスイ・ニクイはそもそも形容詞性接尾辞であり、属性・性質を表すのがその基本的な機能である。そして、「難易」「傾向」も、出来事や主体の「性質」を表しているといえる。したがって本稿では、「性質」の意味を「難易」「傾向」と区別して設定することはない。

## 参考文献

1. Inoue Kazuko (1978) “‘Tough sentences’ in Japanese,” John Hinds and Irwin Howard (eds) pp. 122-154.
2. 庵功雄ほか（2000）『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』松岡弘（監修）スリーエーネットワーク。
3. 加藤重広（2003）「語用論的に見た『可能』の意味」『富山大学人文学部紀要』38、pp. 87-98.
4. 加藤紀子（2001）「日本語の可能・自発と難易文」『意味と形のインターフェース 中右実教授還暦記念論文集』くろしお出版 pp. 293-303.
5. 金田一春彦（1950）「国語動詞の一分類」『言語研究』15、日本言語学会（金田一春彦（編）（1976）に再録 pp. 5-26）.
6. 工藤真由美（1995）『アスペクト・テンス体系とテキスト』ひつじ書房.
7. 佐藤ちゑ子（1988）「難易文の派生について」『文経論叢』24、弘前大学人文学部 pp. 69-88.
8. 日本語記述文法研究会（2009）『現代日本語文法2』くろしお出版.
9. 鈴木基伸（2014）「ヤスイ・ニクイの意味決定に關与する名詞句の意味役割」『大手前大学論集』14、pp. 155-170.
10. 鈴木基伸（2015）「困難さを表す『にくい』と『づらい』はどのように使い分けられているか—アンケート結果の分析と考察—」『大手前大学論集』15、pp. 95-118.
11. 藤巻一真（2004）「日本語難易文の名詞化について」『Scientific approaches to language』神田外語大学言語科学研究センター pp. 1-33.
12. 益岡隆志・田窪行則（1992）『基礎日本語文法—改訂版—』くろしお出版.
13. 森田良行（1977）『基礎日本語文法—意味と使い方』角川書店.